

指導事例

短編- ② 「これって反抗期？」

多忙な日々の中で、子どもの気持ちに寄り添い、親の愛情を伝える方法について考えたり、子どもの気持ちに気づき、受け止めることの大切さを再確認し、子どもの成長の過程で時として難しくなる子どもとの関わり方について考えます。

エピソード



活用方法

ポイント

「親の関わり方」をキーワードに、成長の過程で変化する子どもへの関わり方について考える教材。

主な対象

小・中学生の保護者

時間

30分程度

（「その他の質問」（P6～7）を活用することで、30分以上の実施も可能です。）

想定される実施場面

- ・保護者が参加するイベント等との組み合わせ
- ・PTAの会議等の前後
- ・懇談会

など、保護者が集まる場面で、30分程度の短時間で実施することを想定しています。また、「その他の質問」を活用することで、1～2時間程度の親学習を企画し、参加者を募って実施することもできます。

活動の流れ（30分）

時間	活動内容
7分	<ul style="list-style-type: none">◆ 導入（P3）<ul style="list-style-type: none">▶ あいさつ・進行役の自己紹介▶ 参加体験型学習のルール確認▶ アイスブレイキング・参加者の自己紹介
18分	<ul style="list-style-type: none">◆ グループワーク（P4～5）<ul style="list-style-type: none">▶ エピソード（4コマ漫画）を読む① エピソードを読んでどのように感じましたか？② エピソードにある子どもに対して、あなただったら、どのように関わりますか。※ 時間や目的に応じて、P6～7の「その他の質問」を活用できます。
5分	<ul style="list-style-type: none">◆ ふりかえり（P8）<p>今日の話しあいをふりかえりましょう。</p>

事前準備

資料

資料を準備する

- ・紙の資料を参加者へ配付する場合は、事前に教材を印刷する。
- ・紙の資料を配付せずに、参加者のスマホ等で見てもらう場合は、Webページにつながる二次元コードを準備する。

グループ分け

受付時など、開始前にグループをつくる

（受付時に）「本日はグループにわかれて実施します。
○グループの席にお座りください。」

- 1グループが5～6人になるようにあらかじめグループ分けをする
- ・事前に参加者がわかっている場合は、グループ分けをしておく。その際、父親や母親、祖父母など、さまざまな人がグループに入ると、グループワークで多様な意見が出やすくなる。
- ・当日に参加者がわかる場合は、会場に来た方から順にグループを割り当てる方法などが考えられる。

導入



あいさつ 進行役自己紹介

進行役の自己紹介をする

「みなさん、こんにちは。」
「このあと『子育て』についての4コマ漫画を読んで、話しましょう。」
「わたしは、・・・・・・・・。」

ルール 確認

参加体験型学習に必要な4つのルールについて説明する

「これからの時間の中で、守ってほしいルールが4つあります。」

「参加」:できるだけ自分の考えを話すようにする。
話したくないことはパスもできる。

「尊重」:人が話している時はしっかり聞く。自分の考えと違っていても話をささげらず最後まで聞く。

「守秘」:この場で聞いたことはこの場限り。他でもらさない。ワークが進むと自分の生い立ちや家庭状況を話す人もいる。安心して話せるように、この場での話は絶対に外にもらさないことを約束する。

「時間」:一人あたりの発言時間を守る。
参加者全員が話せるように、制限時間内に話を収めるよう気をつける。

アイスブレイキング 参加者自己紹介

アイスブレイキングを行う

「アイスブレイキングとして〇〇をしましょう。」

- ・参加者の心をほぐすワーク・ミニゲームなどを行う。
- ・緊張や堅い雰囲気をもたらし、意見を出しやすくしたりする。

参加者の自己紹介を行う

「同じグループの方々に自己紹介をしましょう。」

「お名前と、お子様の学年や学級をお伝えください。」

グループワーク



進行役

エピソード（4コマ漫画）を読む

「それでは今日の資料を配ります。はじめにエピソードの4コマ漫画を読んでみましょう。」

グループワーク



エピソードを読んでどのように感じましたか？



進行役

エピソードを読んでどのように感じましたか？気づいたことや感想などを紹介してください。

予想される意見



似たようなことがあるという方々

よくある話だと思った。わが子も話してくれることが減った。うちの場合、子どもに注意すると、下の子にあたるようになるので困っている…。

うちも同じ。小さい頃は素直で可愛かったのに、最近はいつも喧嘩口調…。どんな声かけをすればいいのかなあ…。

子どもを心配して言っているのに、伝わらないのはどうしてなんだろう…。楽しく会話したいだけなのに…。

「べつに。」と返ってきたら、話したくないこともあるということだろうから、深く聞かず様子を見たらどうか。

保護者に注意されてばかりだと、子どもの気持ちが離れてしまいそうで心配…。



その他の意見の方々

子どもは、「友達のことを話しても、どうせ誰のことかわからへんやろ…。」と思っているかもしれない。

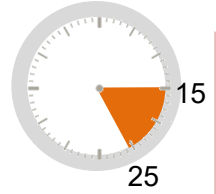


進行のポイント

1. はじめの話しあいを、少ない人数で行うと、グループワークの抵抗感が少なくなるでしょう。まず、グループのメンバーを2人組（3人組）にわけて話しあい、その後に、2人組（3人組）で出された意見を、グループ全体に紹介してもらおう方法が考えられます。
2. 参加者の感想や意見を聞いて、グループの課題意識を把握し、次のワークにつなげましょう。

2

エピソードにある子どもに対して、
あなただったら、どのように関わりますか。



進行役

4コマめで保護者が「こんなときどうすれば…」と悩んでいます。
この保護者の悩みについて、あなただったらどうすると思いますか？
考えてみましょう。意見や感想などを紹介してください。

予想される意見

大人が色々聞きたい気持ちがあるのはわかるけど、子どもの今の様子を観察して、
子どもから話し出してくれるタイミングを待ってみる。

子どもの将来や子育ての方法などについて、周囲に相談してみる。

とにかく明るく対応してみる。「何かあったん？」と聞いて反応がなければ、
「困ったことがあったんなら、いつでも相談してやー」の一言だけ伝えてみる。

頭ごなしに叱らないで、「何のゲームしてるの？一緒にできるかな？教えてよ。」
など、子どもに寄りそった姿勢で接してみる。

「今日はどうやった？おかあさんは今日は…」と自分のことを交えながら、
子どもに話しかけてみる。



進行のポイント

1. 意見に偏りがある場合は、違った意見を紹介することで、話し合いが深まります。
2. 各家庭の考え方や意見を尊重しながら、話を聞くことが大切です。
3. 参加者のニーズや課題意識が絞られている場合は、それに合わせた質問に代えて行う方法があります。P6～7の「その他の質問」をご覧ください。

その他の質問



以下は、「その他の質問」です。参加者のニーズや立場、時間や目的に応じて、③～④について話しあってみましょう。

【親学習の時間を 30 分以上確保できる場合】

グループワーク①②の前後に、「その他の質問」を追加することで、話しあいをより深めることができます。

【グループワークをより焦点化したい場合】

グループワーク①②の代わりに、「その他の質問」から選んで質問することで、参加者のニーズに合った話しあいを行うことができます。

【進行役（ファシリテーター）として気をつけること】

多くの参加者とは異なる少数意見があっても、それを否定せず、全ての意見を尊重しましょう。

★「子どもにはもっと厳しく接しなければならない」と考える参加者が多い場合

グループワーク

③



進行役

叱るときや、叱った後の対応などについて、気を付けていることはありますか？

予想される意見



叱る時は、感情的にならないように気を付けている。
自分の意見や経験を話し過ぎず、子どもの話を聞く姿勢で対話している。

感情的にならないようにしたいけど、つい感情的になってしまう…。
どうやって、子どもと向き合ったら良いか悩んでいる…。

叱った後は、少し時間を空けて、「さっきは言い過ぎた。ごめんね。」の後に、
なぜ叱ったのか、どうしてほしかったのか等伝えるようにしている。

★ きまりを守ることと叱ること ★

生活の中では、いろいろなきまりや約束があります。子どもはきまりを知り、それに従って自分を抑制する力を身につけます。

しかし、なぜそのきまりが必要なのか、子どもにわからない場合もあります。ただ「良いか悪い」を教えるだけでなく、子どもが自分なりに考えるように援助することが大切です。

叱られるからきまりを守るのでは、本当の自制心につながりません。きまりの必要性を理解したうえで、守ろうとする気持ちをもたせるようにすることが大切です。

★子どもの気持ちを考える場合

グループワーク
④



あなたが、この子どもだったら、保護者にはどんなことを望みますか？

予想される意見



自分から話すまで、そっとしておいてほしい。がみがみ言わないで…。

毎日毎日うるさいなあ。あとでやるから、自分を信じて待っていてほしい。ちゃんとやっている時は、褒めてよ…。

帰ってきたら怒ってばかり！おとうさんと一緒に遊びたいのに…。

★子どもの望みを叶えてあげられない時の接し方★

子どもが希望しても、それを認められない場面は日常よくありますよね。ダメなことはダメと伝えてください。

でも、「これならいい？」「こうだったら？」と続けて話してくることも…。そのやりとりが大切です。

子どもは、自分のやりたいようにできない経験から、何がダメだったのか、どんなやりとりをすればよかったのかなど、人との関わり方を学んでいきます。

未来に向かう力を育むリーフレットより



悩んでいる参加者の言葉に対し、どんな言葉がけをしたら良いのだろうか？

ネガティブな言葉を、ポジティブな言葉に言い換える（リフレーミング）ことで、物事の見方が変わるきっかけとなります。進行役によるポジティブな言葉がけにより、参加者の意識（捉え方）やモチベーションの向上につながります。

	リフレーミング前	リフレーミング後
1	カッとしやすい	感受性が豊か・情熱的
2	言い方がきつい	素直に伝えられる
3	はじめがない	物事に集中できる
4	興奮しやすい	情熱的
5	反抗的	自立心がある・自分の考えがはっきりしている
6	わがまま	自分の意見がある・自己主張ができる

ふりかえり



今日の話しあいをふりかえりましょう。



進行役

ありがとうございました。
最後にみなさんの想いを共有しましょう。
一人ずつ順番に、今日の感想をお願いします。

予想される感想

「いろいろな悩みがあるけれど、私だけが悩んでるんじゃないとわかって、安心できた。」

「話を聞いてもらえてスッキリした。」

「もっと話したいと思った。保護者同士でこうした話をする機会はあまりないから、とても参考になる。」

「結局どうしよう…。自分や子どもに合う答えを見つけるのは難しいな。」

「各家庭で考えは違うんだな。他の家庭の考え方も参考にして、子どもと向き合ってみようと思う。」



ふりかえりのポイント

1. ふりかえりでは、ここまでの話しあいをふまえ、エピソードからはなれ自分の身近な事象として捉えて考えていきます。自分ならどう考え、何をするか、多様な考えがあることに気付いたり、自分の子育てをふりかえったりすることになります。
2. 多くの参加者とは異なる少数意見があっても、それを否定せず、全ての意見を尊重します。特定の感想に集約させるなど、無理にまとめる必要はありません。
3. 参加者が日頃の想いや考えを話すことができたか、また、気持ちがリフレッシュでき、子育てに前向きに取り組む気持ちになれたかを問いかけ、確認しましょう。
4. 短編だったため、まだ話し足りない方もいると想定できます。その場合は、別日に実施する親学習など、子育て中の保護者が参加できる集まりを紹介しましょう。

● ふりかえりの言葉の例



進行役

たくさん意見が出てきましたね。「反抗期」について心配や悩みがいろいろありますね。共感できるお話がたくさんあったのではないのでしょうか？その中で出てきた、他の方がしていることがヒントになるかもしれませんね。